

補足資料目次

補足資料 1	福祉健康科学研究科の設置について
補足資料 2	授業科目の履修方法と体系図
補足資料 3	教育目標と各ポリシーとの関係性（概要）
補足資料 4	シラバス「福祉健康科学特論Ⅰ」「福祉健康科学特論Ⅱ」
補足資料 5	3つのポリシーの関連性
補足資料 6	時間割
補足資料 7	臨床心理学コース履修モデル
補足資料 8	公認心理師及び臨床心理士の資格取得に係る科目一覧
補足資料 9	最も負担の多い教員の業務スケジュール
補足資料 10	臨床心理学コース教員の専門分野及び担当科目

地域包括ケアシステムの導入

「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される」ことを目指す。

地域共生社会実現に向けて

- ・地域包括ケアシステムの考え方を全世代対象へ。
- ・公的支援制度の在り方を「縦割り」から「丸ごと」へ。

- ・地域共生社会における**専門職者の役割が不明確**。
- ・誰が支援をするのか、**主体が見えにくい**。

専門職者が**質の高い支援を個人に提供するとともに**、専門職者の働きかけにより、要支援者を含めたすべての人が**互いに関わりを持ちながら共に生きていくことのできる地域社会を地域住民との協働によって創造**することが重要

「地域共生社会」 (本学の定義)

多様な問題・困りを抱えるすべての人が、問題・困りの性質や年齢・世代にかかわらず、医療・福祉・心理の結節に基づく専門的な支援を受けるとともに、そうした問題・困りを抱える人を含めたすべての人が地域社会の中で互いにつながり、存在価値を認めあうコミュニティをつくり出していく社会

地域共生社会の実現に寄与

福祉健康科学部

- ・医療・福祉・心理の領域横断的教育課程の設置
- ・医療・福祉・心理の3つの側面から包括的支援が行える人材を養成。

高度化

大学院福祉健康科学研究科

これまでの本学**福祉健康科学部での教育・研究を基盤**としつつ、**地域住民と協働して地域社会そのものを変革**していくことのできる**高度な専門的知識・技術の修得**に力点を置く

福祉健康科学

個人の心身に働きかける心理学、リハビリテーション、及び個人を取り巻く環境との関係性に注目する社会福祉学の学問体系に立脚し、心身の状態と生活環境の相互作用という観点から個人の健康で自立した生活に関する事実や法則性を明らかにするとともに、専門職者による包括的な生活支援をより効果的に実施する知見と技能を提供する総合的な実践科学

授業科目の履修方法と体系図

<p>（コース） 選択必修</p>	<p>健康医科学特論 病態医科学特論 病態治療学特論 運動器系機能病態解析学特論 神経系機能病態解析学特論 医療工学特論 公衆衛生学特論 臨床実践演習</p> <p><健康医科学コースの学生> 医療関連科目群から 4科目（8単位）の選択必修</p>	<p>福祉社会科学課題演習 社会保障政策特論 福祉政策特論 高齢者福祉特論 児童・家庭福祉特論 障害者福祉特論 生活困窮者支援特論 医療福祉特論</p> <p><福祉社会科学コースの学生> 福祉関連科目群から 4科目（8単位）の選択必修</p>	<p>心理学研究法特論 臨床心理学研究法特論 障害児・者心理学特論 神経生理心理学特論 臨床発達心理学特論 司法・犯罪心理学特論 学校臨床心理学特論 産業・労働心理学特論 教育心理学特論</p> <p>臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ 臨床心理面接特論Ⅰ・Ⅱ 臨床心理査定演習Ⅰ・Ⅱ 臨床心理基礎実習 臨床心理展開実習 臨床心理応用実習A・B 臨床心理実習A・B 臨床動作法特論 保護者支援特論</p> <p><臨床心理学コースの学生> 心理関連科目群から 4科目（8単位）の選択必修</p>	
<p>3 （専攻） 選択必修</p>	<p>地域福祉特論 家族・コミュニティ心理学特論 地域医療健康増進科学特論</p> <p>（1科目（2単位）の選択必修）</p>	<p>精神医学特論 高齢者疾患特論</p> <p><健康医科学コースの学生> 福祉関連科目群・心理関連科目群 各1科目（2単位）合計4単位以上の 選択必修</p>	<p>生涯発達心理学特論 健康心理学特論</p> <p><臨床心理学コースの学生> 医療関連科目群・福祉関連科目群 各1科目（2単位）合計4単位以上の 選択必修</p>	
<p>必修</p>	<p>福祉健康科学特論Ⅱ 福祉健康科学特論Ⅰ</p> <p>（2科目（4単位）の必修）</p>	<p>（各科目群から1科目（2単位），合計6単位の選択必修）</p>	<p>福祉健康科学特別研究Ⅱ 福祉健康科学特別演習Ⅱ 福祉健康科学特別研究Ⅰ 福祉健康科学特別演習Ⅰ</p> <p>（4科目（12単位）の必修）</p>	<p>基礎科目</p> <p>医療関連科目群</p> <p>福祉関連科目群</p> <p>心理関連科目群</p> <p>発展科目</p> <p>研究展開科目</p>

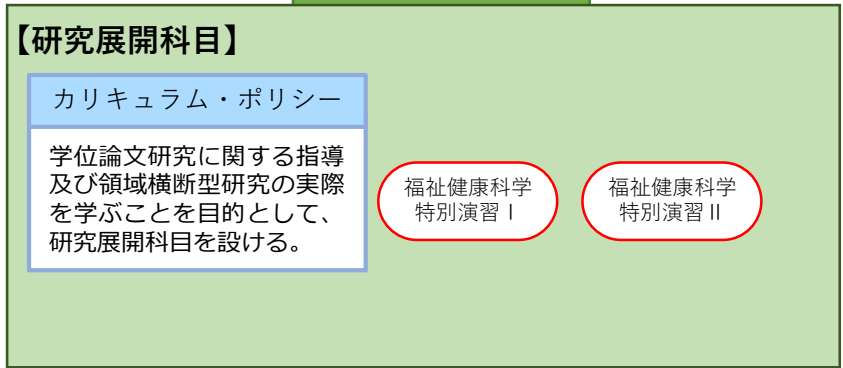
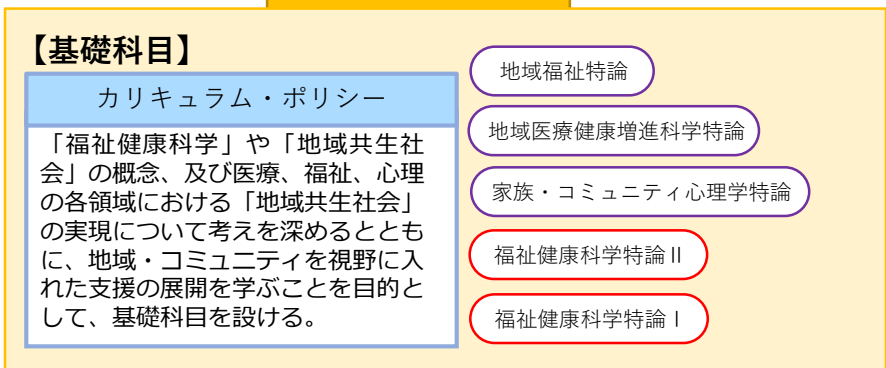
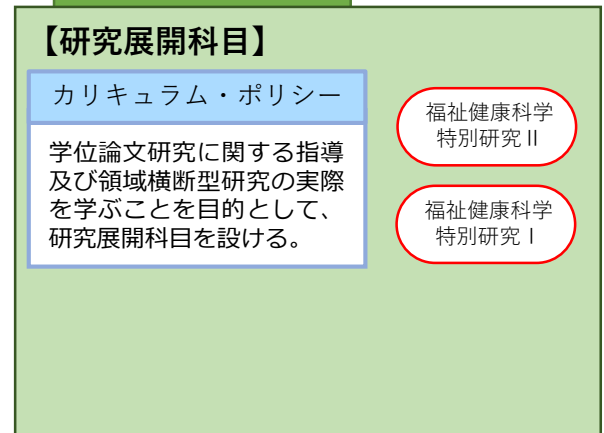
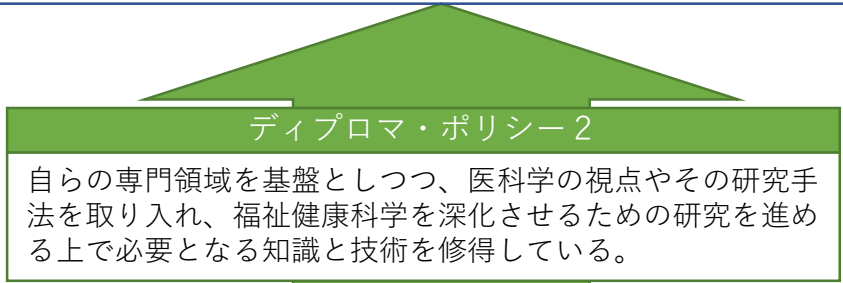
教育目標と各ポリシーとの関連性 (概要)

教育目標

福祉健康科学研究科は、「より高度な専門性を備え、多角的・総合的な支援を地域に根付かせていく実践力」と「医科学を取り入れて福祉健康科学を深化させることができる研究力」を兼ね備え、かつそれらの相互作用によって、「地域共生社会」の概念を理解し、多角的な方向からその実現を担うパイオニアの養成を目的とする。

4 コースを中心として実施する科目

3 コース合同で行う科目



○・・・必修科目 ○・・・選択必修科目

授 業 科 目 名 (科目の英分名)					担当教員名
福祉健康科学特論 I (Special Seminar I in Welfare and Health Sciences)					
必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	
必修	2	1	前期	月・6	相澤仁、片岡晶志、上白木悦子、川村岳人
【授業のねらい】 本研究科の目的は「地域共生社会の概念を理解し、多角的な方向からその実現を担うことができるパイオニア」を養成することである。そのためには、まず、「福祉健康科学」や「地域共生社会」の概念を確実に理解するとともに、関連する取組の実際を具体的に理解しておく必要がある。この科目では、二年間の学修を始めるにあたり、まず「福祉健康科学」や「地域共生社会」について深く学び、それをもって今後の学修の基礎とすることをねらいとする。					
【具体的な到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉健康科学の内容およびその意義と独自性について具体的に説明できる。 ・地域共生社会の概念を整理した上で、重要な理論や方法について説明できる。 ・地域共生社会の実現に関して注目される複合的問題について理解を深め、介入すべきポイントを示すことができる。 ・地域共生社会の実現を推進する行政の方針や政策を理解するとともに、専門家として必要な倫理や義務を示すことができる。 					
【授業の内容】 第1回：福祉健康科学の概要：歴史・定義・意義・学問的な位置付け（片岡） 第2回：福祉健康科学の内容：目的・対象・方法（片岡） 第3回：福祉健康科学の成果と課題：主要な取り組みと今後の展望（片岡） 第4回：地域包括ケアシステムの強化と地域共生社会の概念（相澤） 第5回：地域共生社会の諸相（1）：対象者の拡大（相澤） 第6回：地域共生社会の諸相（2）：総合的な支援の強化と支援のためのネットワークづくり（相澤） 第7回：地域共生社会の諸相（3）：複合的な課題（川村） 第8回：地域共生社会の諸相（4）：地域・コミュニティという視点（川村） 第9回：地域共生社会実現に向けた取組（1）：全国の先進的・特徴的な取組（川村） 第10回：地域共生社会実現に向けた取組（2）：大分県での取組（相澤） 第11回：複合的問題への具体的対応（1）：どう理解するか（上白木） 第12回：複合的問題への具体的対応（2）：どう支援するか（上白木） 第13回：行政や政策に関する知識と地域共生社会への活用（相澤） 第14回：専門家としての倫理と義務（上白木） 第15回：ミニ・プレゼンテーション：地域共生社会実現のために必要な資質・能力とは（相澤） ☆学生がより深く学ぶための工夫 担当教員をファシリテーターとしたディスカッションを取り入れることで、様々な視点や考え方に触れ、自らの立場を明確にするとともに他との結節について学びを深める。また、視聴覚教材や事例を提示し具体的な学びを促す。専門用語等については適宜レジュメを配布し、解説を行う。					
【時間外学習】 授業の進行にあわせて指示する。また、課題となる事項について関心をもって調べること。					
【教科書】 なし。資料は適宜配付する。					
【参考書】 授業の進行にあわせて指示する。					
【成績評価の方法及び評価割合】 最終レポート（70%）、授業への積極的な参加（30%）					
【注意事項】 受講生には積極的な参加を求める。					
【備考】 なし。					

授 業 科 目 名 (科目の英分名)
福祉健康科学特論Ⅱ (Special Seminar Ⅱ in Welfare and Health Sciences)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
必修	2	1	後期	月・6	渡邊亘、河上敬介、川村岳人、飯田法子

【授業のねらい】

福祉健康科学特論Ⅰで得た「福祉健康科学」と「地域共生社会」に関する理解に基づき、健康医科学、社会福祉科学、臨床心理学の専門的な視点や技法がいかに関「地域共生社会」の実現に役立つのか、具体的な取組事例（個の支援および地域・コミュニティ支援）にも触れながら深く学ぶ。また、それらの視点を結節させ、連携と協働のもとに、「地域共生社会」を牽引する方策あるいは資質・能力について考究する。これにより、医療、福祉、心理を俯瞰し、多角的・総合的な支援を実践できる知識と技術の伸長を進める。

【具体的な到達目標】

- ・専門領域を深く知るスペシャリストであることと、他領域を広く知るジェネラリストであることの対立線上で専門家としての職能を考えていくことの意義を説明することができる。
- ・個の支援と地域・コミュニティへの支援の両方に関する自らの専門性（視点や技法）の特徴・意義を確認するとともに、他の専門性についても理解を深め、両者の異同を明確にすることができる。
- ・様々な専門性が結節することの意義・重要性を深く理解し、具体的に示すことができる。
- ・結節と連携を牽引し、地域共生社会の実現を担うために必要な資質・能力について明確に示すことができる。

【授業の内容】

第1回：職能としての「スペシャリスト」と「ジェネラリスト」（渡邊）

第2回：健康医科学は地域共生社会の実現になぜ必要か（河上）

第3回：地域共生社会と身体健康支援（1）：取組と成果（河上）

第4回：地域共生社会と身体健康支援（2）：課題と展望（河上）

第5回：ディスカッション：健康医科学の視点と技法を地域共生社会の実現に生かすために（河上）

第6回：福祉社会科学は地域共生社会の実現になぜ必要か（川村）

第7回：地域共生社会と生活支援：取組と成果（川村）

第8回：地域共生社会と生活支援：課題と展望（川村）

第9回：ディスカッション：福祉社会科学の視点と技法を地域共生社会の実現に生かすために（川村）

第10回：臨床心理学は地域共生社会の実現になぜ必要か（飯田）

第11回：地域共生社会と心の健康支援（1）：取組と成果（飯田）

第12回：地域共生社会と心の健康支援（2）：課題と展望（飯田）

第13回：ディスカッション：臨床心理学の視点と技法を地域共生社会の実現に生かすために（飯田）

第14回：連携と協働を牽引するための資質と能力（渡邊）

第15回：ミニ・プレゼンテーション：医療・福祉・心理の結節をどのように進めるか（渡邊）

☆学生がより深く学ぶための工夫

節目となる回を担当教員をファシリテーターとしたディスカッションを行い、様々な視点や考え方に触れ、自らの立場を明確にするとともに他との結節について学びを深める。また、視聴覚教材や事例を提示し具体的な学びを促す。専門用語等については適宜レジュメを配布し、解説を行う。

【時間外学習】 授業の進行にあわせて指示する。また、課題となる事項について関心をもって調べること。

【教科書】 なし。資料は適宜配付する。

【参考書】 授業の進行にあわせて指示する。

【成績評価の方法及び評価割合】

最終レポート（70%）、授業への積極的な参加（30%）

【注意事項】 受講生には積極的な参加を求める。

【備考】 なし。

教育の目標

健康医科学コース

福祉社会科学コース

臨床心理学コース

福祉健康科学研究科は、「より高度な専門性を備え、多角的・総合的な支援を地域に根付かせていく実践力」と「医科学を取り入れて福祉健康科学を深化させることができる研究力」を兼ね備え、かつそれらの相互作用によって、「地域共生社会」の概念を理解し、多角的な方向からその実現を担うパイオニアの養成を目的とする。

アドミッション・ポリシー (入学者受入方針)

本研究科では以下のような人材を求める。

入学者選抜の基本方針

- 医療、福祉、心理いずれかの基本的知識を持つとともに、「地域共生社会」の理念に立って福祉健康科学における自らの専門分野の意義を多角的な視点で学ぼうとする意欲を持つ人。
- 社会人については、社会経験にもとづく明確な問題意識を持つと同時に、自らの専門性をさらに高めようとする意欲を持つ人。

求める学生像

<健康医科学コース>

- 健康医科学（理学療法や生命科学等）に関する基礎知識を有し、健康医科学に関する臨床実践・行政・研究を牽引するとともに、「地域共生社会」の実現に携わりたい人。

<福祉社会科学コース>

- 福祉社会科学に関する基礎知識を有し、福祉社会科学に関する実践・行政・研究を牽引するとともに、「地域共生社会」の実現に携わりたい人。

<臨床心理学コース>

- 心理学に関する基礎知識及び臨床心理学的な支援に関する資質を有し、心理専門職として、心理支援の実践や研究を牽引するとともに、「地域共生社会」の実現に携わりたい人。

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーを実現するために、以下のように教育課程を編成する。

基礎科目

「福祉健康科学」や「地域共生社会」の概念、及び医療、福祉、心理の各領域における「地域共生社会」の実現について考えを深めるとともに、地域・コミュニティを視野に入れた支援の展開を学ぶことを目的として、基礎科目を設ける。

発展科目

医療、福祉、心理の各領域における支援実践と研究に関するより詳細かつ高度な学修を行い、「地域共生社会」を実現するために必要となる知識・技術・論理的思考力等を身につけることを目的として、発展科目を設ける。

研究展開科目

学位論文研究に関する指導及び領域横断型研究の実際を学ぶことを目的として、研究展開科目を設ける。

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

本研究科では以下の能力を有した者に学位を授与する。

DP1 実践力

自らの専門領域に加え、医療、福祉、心理を俯瞰し、個人と地域を関係づけた多角的・総合的な支援を実践できる知識と技術を修得している。

+

<健康医科学コース>
福祉健康科学及び健康医科学を深く理解し、医療に関する諸問題に対して多角的・総合的にアプローチできる専門知識と技術を修得している。

+

<福祉社会科学コース>
福祉健康科学及び福祉社会科学を深く理解し、福祉に関する諸問題に対して多角的・総合的にアプローチできる専門知識と技術を修得している。

+

<臨床心理学コース>
福祉健康科学と心理学を深く理解し、心の健康に関する諸問題に対して多角的・総合的にアプローチできる専門知識と技術を修得している。

DP2 研究力

自らの専門領域を基盤としつつ、医科学の視点や研究方法を取り入れ、福祉健康科学を深化させるための研究を進める上で必要となる知識と技術を修得している。

+

<健康医科学コース>
健康医科学に関する課題を明らかにし、健康医科学の発展に向けた研究を進める上で必要な知識と技術を修得している。

+

<福祉社会科学コース>
現代の福祉課題や地域の福祉ニーズを分析し、福祉社会科学の発展に向けた研究を進める上で必要な知識と技術を修得している。

+

<臨床心理学コース>
心の健康や心理学的支援に関する現代的課題を発見・分析し、臨床心理学を中心とする心理学の発展に向けた研究を進める上で必要な知識と技術を修得している。

時間割

黄色 発展科目（他分野選択科目）
 緑色 基礎科目（選択必修科目）

補足資料 6

前期

時限	1限		2限		3限	4限	5限	6限	
曜日	授業科目名	遠隔	授業科目名	遠隔	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	遠隔
月			臨床心理面接特論Ⅰ		臨床心理実習 A			福祉健康科学特論Ⅰ	○
火	産業・労働心理学特論 臨床心理査定演習Ⅰ		障害児・者心理学特論					健康医科学特論 生活困窮者支援特論	○
水	臨床心理基礎実習		臨床心理学特論Ⅰ					病態医科学特論 地域福祉特論 福祉社会科学課題演習	○ ○
木	臨床心理展開実習		臨床心理実習 B					病態治療学特論 社会福祉原理論	○ ○
金	福祉心理学特論	○	心理学研究法特論 保護者支援特論			臨床動作法特論		公衆衛生学特論 児童・家庭福祉特論	○ ○
集中	健康心理学特論	○	司法・犯罪者心理学特論		臨床心理応用実習 A	臨床心理応用実習 B			
通年	福祉健康特別演習Ⅰ、福祉健康特別演習Ⅱ、福祉健康特別研究Ⅰ、福祉健康特別研究Ⅱ								

後期

時限	1限		2限		3限	4限	5限	6限	
曜日	授業科目名	遠隔	授業科目名	遠隔	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	遠隔
月			精神医学特論	○	臨床心理学特論Ⅱ			福祉健康科学特論Ⅱ	○
火	臨床心理査定演習Ⅱ		臨床心理面接特論Ⅱ			神経生理心理学特論		運動器系機能病態解析学特論 社会保障政策特論	○
水	学校臨床心理学特論 臨床心理基礎実習							神経系機能病態解析学特論 高齢者疾患特論	○ ○
木	臨床心理展開実習		臨床心理実習 B		臨床心理学研究法特論			地域医療健康増進科学特論 医療福祉特論	○
金	臨床発達心理学特論		臨床実践演習					家族・コミュニティ心理学特論 医療工学特論 障害者福祉特論	○ ○ ○
集中	生涯発達心理学特論	○	教育心理学特論		高齢者福祉特論	臨床心理応用実習 A	臨床心理応用実習 B	福祉政策特論	
通年	福祉健康特別演習Ⅰ、福祉健康特別演習Ⅱ、福祉健康特別研究Ⅰ、福祉健康特別研究Ⅱ								

備考 遠隔の行に○がついている授業科目については、旦那原キャンパス及び狭間キャンパスどちらのキャンパスからでもテレビ会議システムにより受講可。

ただし、○がついていない科目についても、両キャンパスで受講生がいる場合には、テレビ会議システムを利用する。

公認心理師及び臨床心理士資格取得に係る履修モデル

補足資料7

M1 前期

時限	1限	2限	3限	4限	5限	6限
曜日	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名
月		臨床心理面接特論Ⅰ				福祉健康科学特論Ⅰ
火	臨床心理査定演習Ⅰ	障害児・者心理学特論				
水	臨床心理基礎実習	臨床心理学特論Ⅰ				
木	臨床心理展開実習					
金	福祉心理学特論	心理学研究法特論		臨床動作法特論		
集中	健康心理学特論	司法・犯罪者心理学特論	臨床心理応用実習 A			
通年	福祉健康特別演習Ⅰ	福祉健康特別研究Ⅰ				

M1 後期

時限	1限	2限	3限	4限	5限	6限
曜日	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名
月		臨床心理面接特論Ⅱ	臨床心理学特論Ⅱ			福祉健康科学特論Ⅱ
火	臨床心理査定演習Ⅱ			神経生理心理学特論		
水	臨床心理基礎実習					
木	臨床心理展開実習		臨床心理学研究法特論			
金	臨床発達心理学特論					
集中	臨床心理応用実習 A					
通年	福祉健康特別演習Ⅰ	福祉健康特別研究Ⅰ				

M2 前期

時限	1限	2限	3限	4限	5限	6限
曜日	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名
月			臨床心理実習 A			
火	産業・労働心理学特論					
水						
木		臨床心理実習 B				
金		保護者支援特論				
集中	臨床心理応用実習 B					
通年	福祉健康特別演習Ⅱ	福祉健康特別研究Ⅱ				

M2 後期

時限	1限	2限	3限	4限	5限	6限
曜日	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名
月		精神医学特論				
火	臨床心理査定演習Ⅱ	臨床心理実習 A				
水	学校臨床心理学特論					
木		臨床心理実習 B				
金						家族・コミュニティ心理学特論
集中	臨床心理応用実習 B					
通年	福祉健康特別演習Ⅱ	福祉健康特別研究Ⅱ				

黄色 必修科目、 灰色 基礎科目（選択必修）、 橙色 発展科目（自分野科目群） 緑色 発展科目（他分野科目群）

公認心理師資格取得に係る履修モデル

M1 前期

時限	1限	2限	3限	4限	5限	6限
曜日	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名
月		臨床心理面接特論Ⅰ				福祉健康科学特論Ⅰ
火	臨床心理査定演習Ⅰ					
水						
木	臨床心理展開実習					
金	福祉心理学特論					
集中	健康心理学特論	司法・犯罪者心理学特論	臨床心理応用実習 A			
通年	福祉健康特別演習Ⅰ	福祉健康特別研究Ⅰ				

M1 後期

時限	1限	2限	3限	4限	5限	6限
曜日	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名
月						福祉健康科学特論Ⅱ
火						
水						
木	臨床心理展開実習					
金						
集中	臨床心理応用実習 A					
通年	福祉健康特別演習Ⅰ	福祉健康特別研究Ⅰ				

M2 前期

時限	1限	2限	3限	4限	5限	6限
曜日	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名
月			臨床心理実習 A			
火	産業・労働心理学特論					
水						
木						
金						
集中	臨床心理応用実習 B					
通年	福祉健康特別演習Ⅱ	福祉健康特別研究Ⅱ				

M2 後期

時限	1限	2限	3限	4限	5限	6限
曜日	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名
月		精神医学特論				
火		臨床心理実習 A				
水	学校臨床心理学特論					
木						
金						家族・コミュニティ心理学特論
集中	臨床心理応用実習 B					
通年	福祉健康特別演習Ⅱ	福祉健康特別研究Ⅱ				

黄色 必修科目、 灰色 基礎科目（選択必修）、 橙色 発展科目（自分野科目群） 緑色 発展科目（他分野科目群）

公認心理師及び臨床心理士の資格取得に係る科目一覧（必要科目のみ記載）

補足資料8

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	資格取得要件		
				臨床心理士	公認心理師	両方
基礎科目	家族・コミュニティ心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2後	2	○【C群】 1科目必修	○【8】	○
	司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1・2前	2		○【4】	○
発展科目	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2後	2	○【D群】 1科目必修	○【1】	○
	障害児・者心理学特論	1・2前	2			
	心理学研究法特論	1・2前	2	○【A群】 1科目必修		○ 1科目必修
	臨床心理学研究法特論	1・2後	2			
	神経生理心理学特論	1・2後	2	○【B群】 1科目必修		○ 1科目必修
	臨床発達心理学特論	1・2後	2			
	福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	1・2前	2		○【2】	○
	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	1・2後	2		○【3】	○
	産業・労働心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	1・2前	2		○【5】	○
	健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	1・2前	2		○【9】	○
	臨床心理学特論Ⅰ	1前	2	○		○
	臨床心理学特論Ⅱ	1後	2	○		○
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	1前	2	○	○【7】	○
	臨床心理面接特論Ⅱ	1後	2	○		○
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理アセスメントに関する理論と実践）	1前	2	○	○【6】	○
	臨床心理査定演習Ⅱ	1後	2	○		○
	臨床心理基礎実習	1通	2	○		○
	臨床心理展開実習（心理実践実習A）	1通	2		○【10】 (135H)	○
	臨床心理応用実習A（心理実践実習B）	1通	3		○【10】 (112H)	○
	臨床心理応用実習B（心理実践実習C）	2通	2	○ 1科目必修	○【10】 (80H)	○
臨床心理実習A（心理実践実習D）	2通	2	○【10】 (135H)		○	
臨床心理実習B	2通	2				
臨床動作法特論	1・2前	2	○【E群】 1科目必修		○ 1科目必修	
保護者支援特論	1・2前	2				
	必要科目数 (単位数)	—	—	13科目 (26単位)	13科目 (27単位)	21科目 (43単位)

<前期>

	月	火	水	木	金
1				臨床心理展開実習	
2	臨床心理面接特論Ⅰ		臨床心理学特論Ⅰ	臨床心理実習B	
3	臨床心理実習A		チュートリアルⅡ	臨床実践職能論	
4	オフィスアワー	教育臨床心理学Ⅰ	アーリー・エクスポージャー		
5	オフィスアワー		学内会議		
6					
7					

集中等不定期開催
臨床心理応用実習A
臨床心理応用実習B
ライフサポート論
福祉健康科学特別研究Ⅰ
福祉健康科学特別研究Ⅱ
福祉健康科学特別演習Ⅰ
福祉健康科学特別演習Ⅱ

<後期>

	月	火	水	木	金
1				臨床心理展開実習	
2	臨床心理面接特論Ⅱ	臨床心理実習A		臨床心理実習B	
3	オフィスアワー			臨床心理学研究法特論	
4	オフィスアワー			臨床心理面接実習	
5	教育臨床心理学Ⅱ		学内会議		
6	福祉健康科学特論Ⅱ				
7					

集中等不定期開催
臨床心理応用実習A
臨床心理応用実習B
福祉健康科学特別研究Ⅰ
福祉健康科学特別研究Ⅱ
福祉健康科学特別演習Ⅰ
福祉健康科学特別演習Ⅱ

記載は、時間割に落とし込めるものとし、その他実習館関係として実習内容のコーディネート、個別の実習指導、実習指導や実習で生じた危機事象への対応、学外実習機関との連絡調整や授業の準備、レポート等の課題の確認、学生対応（オフィスアワーを除く）、自身の研究活動、学部・大学院の運営に関する業務等を行う。

No	氏名	職名	担当授業科目	専門分野
1	武内 珠美	教授	臨床心理学研究法特論 ※1 学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開） 臨床心理学特論 I ※1 臨床心理展開実習（心理実践実習 A） ※2 臨床心理応用実習 A（心理実践実習 B） ※2 臨床心理応用実習 B（心理実践実習 C） ※2 臨床心理実習 A（心理実践実習 D） ※2 臨床心理実習 B ※2 保護者支援特論 ※1	【臨床心理学】 特に、母子臨床（親子関係等）、学校臨床（スクールカウンセリング、学校適応に関する心理的・発達的問題）
2	渡邊 亘	教授	福祉健康科学特論 II ※1 臨床心理学研究法特論 ※1 臨床心理学特論 I ※1 臨床心理面接特論 I（心理支援に関する理論と実践） ※1 臨床心理面接特論 II 臨床心理展開実習（心理実践実習 A） ※2 臨床心理応用実習 A（心理実践実習 B） ※2 臨床心理応用実習 B（心理実践実習 C） ※2 臨床心理実習 A（心理実践実習 D） ※2 臨床心理実習 B ※2	【臨床心理学】 特に、心理療法（カウンセリング、対人関係精神分析、遊戯療法等）
3	飯田 法子	准教授	福祉健康科学特論 II ※1 家族・コミュニティ心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践） 福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開） 臨床心理学特論 II ※1 臨床心理展開実習（心理実践実習 A） ※2 臨床心理応用実習 A（心理実践実習 B） ※2 臨床心理応用実習 B（心理実践実習 C） ※2 臨床心理実習 A（心理実践実習 D） ※2 臨床心理実習 B ※2	【臨床心理学】 特に、福祉臨床（虐待等）、子育て支援
4	河野 伸子	准教授	臨床発達心理学特論 障害児・者心理学特論 ※2 臨床心理学特論 II ※1 臨床心理基礎実習 ※2 臨床心理展開実習（心理実践実習 A） ※2 臨床心理応用実習 A（心理実践実習 B） ※2 臨床心理応用実習 B（心理実践実習 C） ※2 臨床心理実習 A（心理実践実習 D） ※2 臨床心理実習 B ※2 保護者支援特論 ※1	【臨床心理学】 特に、発達臨床（発達上の心理的問題）、心理療法（カウンセリング、マインドフルネス等）
5	中里 直樹	准教授	心理学研究法特論 ※1	【社会心理学】 特に、心理的ウェルビーイング（幸福度）
6	溝口 剛	准教授	臨床心理学研究法特論 ※1 臨床心理学特論 I ※1 臨床心理査定演習 I（心理アセスメントに関する理論と実践） 臨床心理査定演習 II ※2 臨床心理展開実習（心理実践実習 A） ※2 臨床心理応用実習 A（心理実践実習 B） ※2 臨床心理応用実習 B（心理実践実習 C） ※2 臨床心理実習 A（心理実践実習 D） ※2 臨床心理実習 B ※2	【臨床心理学】 特に、青年期の心理臨床（ひきこもり等）、学生相談
7	村上 裕樹	准教授	神経生理心理学特論 心理学研究法特論 ※1	【実験心理学】 特に、情動、神経生理心理
8	池永 恵美	講師	障害児・者心理学特論 ※2 臨床心理学特論 II ※1 臨床心理基礎実習 ※2 臨床心理展開実習（心理実践実習 A） ※2 臨床心理応用実習 A（心理実践実習 B） ※2 臨床心理応用実習 B（心理実践実習 C） ※2 臨床心理実習 A（心理実践実習 D） ※2 臨床心理実習 B ※2 臨床動作法特論 ※2	【臨床心理学】 特に、障害児者心理、臨床動作法
9	岩野 卓	講師	産業・労働心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開） 臨床心理面接特論 I（心理支援に関する理論と実践） ※1 臨床心理応用実習 A（心理実践実習 B） ※2 臨床心理応用実習 B（心理実践実習 C） ※2	【臨床心理学】 特に、障害児者心理、臨床動作法

※1 オムニバス科目 ※2 共同科目

その他：各教員研究展開科目（福祉健康科学特別演習 I・II、福祉健康科学特別研究 I・II）を担当